

# 障がいに対する理解を深めよう 「共に生き、共に支え合う、安心して住みよい あぐい」を目指して

No. 5

(阿久比町障害者計画基本理念)

阿久比町障がい者自立支援協議会権利擁護部会の取り組みとしてこの記事に掲載しています。権利擁護部会では障がいに対する理解啓発と差別解消に取り組んでいます。

障がいの有無に関わらず、誰もが安心して生活できるまちを目指して、障がいのある方たちの日常生活の視点から、私たちにできることを考えてみましょう。

今回は、視覚障がいのある稲垣さんへインタビューしました。(本人から氏名の掲載の了承を得ています)



## ●視覚障がいとは

視力や視野などの機能が十分でなく、見えなかったり見えづらかったりする状態のこと。全く見えないことを「全盲」、視野が狭くなっていたり、視野の一部が欠けていたりすることで生活に困難がある状態のことを「弱視(ロービジョン)」といいます。

### 【障がいについて】

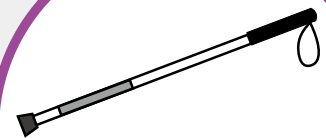
私は生まれつき目が見えなかったわけではありません。もともと視力は良くなかったのですが、字を見ることができ、自転車にも乗っていました。中学生くらいのときに、ものを近づけ過ぎて見ていたことが原因で視力が急激に悪くなってしまいました。現在右目は全く見えなくなり、左目の視力は0.03くらいです。

### 【日常生活では】

阿久比町の自然が好きでよく散歩をします。一人で外出するときは白杖を使い、妻と一緒に外出するときは白杖を持たずにサポートしてもらいながら歩きます。

本を読むときは、専用の機械を使用して音声で聞き、広報は「声の広報」※を利用しています。

※ 声の広報ボランティア「あいうえお」の皆さんの協力により町広報「広報あぐい」や町社会福祉協議会広報「あぐいの福祉」を音訳したCDのこと



白杖：路面の状態や障害物を事前に察知することで安全に歩行できるようにする補助具



### 【日常生活で感じるうれしかったこと、困っていること】

電車を利用するとき、白杖を持っていると駅員が声をかけてくれて、乗り場まで誘導してくれます。名鉄植大駅のような無人駅だと駅員がいないため利用しづらいです。

歩道は自転車も通ることが多く危険を感じます。歩行者と自転車の通行が仕切られている歩道だと安心です。

信号機は音が出るものと出ないものがあり、音が出ない場合いつ渡っていいのかわからないので大変です。常に音が出ると設置が難しいようですが、ボタンを押すと音が出るものもあるので、多くの場所に音の出る信号機を設置してほしいです。



▲歩行者と自転車の通行が仕切られている道路

### 【困っている方を見かけたら】

声をかけてもらえるとうれしいです。ただし、突然触られると驚いてしまうので、まず声をかけてください。困っていることを伝えるので助けてもらえるとうれしいです。

この広報を通じて、障がいのことで知りたいこと、知ってほしいことがありましたら、下記までお知らせください。

■問い合わせ先 住民福祉課社会福祉係 ☎(48) 1111 (内1121・1122) FAX(48) 0229  
電子メール fukushi@town.agui.lg.jp

